

苫小牧港と横浜港の連携に関する協定書

我が国では国内港湾の競争力強化を図るべく、港湾施設整備による機能強化を進め、経済活動の活性化や国民生活の安定に資する物流網の構築を進めてきた。

こうした中、苫小牧港では、韓国、中国などに加え、北米との定期コンテナ航路、国際フィーダー航路を有し、北海道内最大のコンテナ取扱港として発展してきた。一方、横浜港では、戦略港湾として基幹航路の維持拡大、アジアをはじめとした世界各国との航路や国際フィーダー航路の拡充に取り組んできている。

これまでの両港の取組を活かしながら、今後見込まれる東南アジアとの貿易の増大など、海上物流の変化に的確に対応し、荷主の利便性向上を図っていくため、以下の項目について本協定を締結し、相互協力体制を構築するものである。

- 1 苫小牧港と横浜港との連携による海上輸送ネットワークの充実強化
- 2 荷役機械、電気設備等の管理・運営面における技術協力
- 3 LNG バンカリング拠点形成に向けた情報交換、国等への施策提言
- 4 国際コンテナ物流に関する情報交換、国等への施策提言及び予算要望

なお、事業展開を検討するため、苫小牧港と横浜港による協議の場を設けることとする。

平成 30 年 3 月 27 日

苫小牧港港湾管理者

苫小牧港管理組合 管理者 苫小牧市長 岩倉 博文

横浜港港湾管理者

横浜市長 林 文子